

開講科目一覧

※2019年度の内容につき2020年度は変更になる場合があります。

区分	授業科目名	形態	配当年	単位	摘要
理論科目	アートマネージメント	講義	1・2年	2	8単位以上選択必修 ※1級建築士受験資格の取得を希望する者は必ず修得すること。
	デザインマネージメント	講義	1・2年	2	
	現代美術特殊研究	講義	1・2年	2	
	美術史特殊研究	講義	1・2年	2	
	デザイン文化特殊研究	講義	1・2年	2	
	環境自然文化特殊研究	講義	1・2年	2	
	造形解析研究	講義	1・2年	2	
	メディアデザイン特殊研究	講義	1・2年	2	
	都市文化特殊研究※	講義	1・2年	2	
共通科目	造形ⅠA (日本画)	演習	1・2年	2	6単位以上10単位まで選択必修 (ただし、インターンシップについては4単位を上限として含めることができる。) ※1級建築士受験資格の取得を希望する者は、18単位全て修得することが、実務経験2年を満了するための必要条件となる。
	造形ⅠB (日本画)	演習	1・2年	2	
	造形ⅠC (洋画)	演習	1・2年	2	
	造形ⅠD (洋画)	演習	1・2年	2	
	造形ⅡA (彫刻、コンテンポラリーアート)	演習	1・2年	2	
	造形ⅡB (彫刻、コンテンポラリーアート)	演習	1・2年	2	
	造形ⅢA (アニメーション・CG、マンガ、メディアデザイン)	演習	1・2年	2	
	造形ⅢB (アニメーション・CG、マンガ、メディアデザイン)	演習	1・2年	2	
	造形ⅣA (グラフィックデザイン、イラストレーションデザイン)	演習	1・2年	2	
	造形ⅣB (グラフィックデザイン、イラストレーションデザイン)	演習	1・2年	2	
	造形ⅤA (建築・インテリアデザイン)	演習	1・2年	2	
	造形ⅤB (建築・インテリアデザイン)	演習	1・2年	2	
	造形ⅥA (ライフデザイン、ジュエリーデザイン)	演習	1・2年	2	
	造形ⅥB (ライフデザイン、ジュエリーデザイン)	演習	1・2年	2	
	特別講義(建築構造)※	講義	1・2年	2	
	特別講義(建築設備)※	講義	1・2年	2	
	インターンシップⅠ※	演習	1・2年	2	
	インターンシップⅡ※	演習	1・2年	2	
	インターンシップⅢ※	演習	1・2年	2	
	インターンシップⅣ※	演習	1・2年	2	
インターンシップⅤ※	演習	1・2年	2		
インターンシップⅥ※	演習	1・2年	2		
インターンシップⅦ※	演習	1・2年	2		
インターンシップⅧ※	演習	1・2年	2		
研究分野別科目	造形表現制作分野				いずれかの研究分野より2科目8単位以上選択必修、「修了制作」と合わせて16単位以上修得(同一科目・同一担当者のⅠ・Ⅱを履修)
	日本画研究Ⅰ	演習	1年	4	
	日本画研究Ⅱ	演習	1年	4	
	洋画研究Ⅰ	演習	1年	4	
	洋画研究Ⅱ	演習	1年	4	
	彫刻研究Ⅰ	演習	1年	4	
	彫刻研究Ⅱ	演習	1年	4	
	先端表現研究Ⅰ	演習	1年	4	
	先端表現研究Ⅱ	演習	1年	4	
	修了制作	演習	2年	8	
	造形表現構想分野				
	視覚伝達デザイン研究Ⅰ	演習	1年	4	
	視覚伝達デザイン研究Ⅱ	演習	1年	4	
	メディアデザイン研究Ⅰ	演習	1年	4	
	メディアデザイン研究Ⅱ	演習	1年	4	
	建築デザイン研究Ⅰ	演習	1年	4	
	建築デザイン研究Ⅱ	演習	1年	4	
	ライフデザイン研究Ⅰ	演習	1年	4	
	ライフデザイン研究Ⅱ	演習	1年	4	
ランドスケープデザイン研究Ⅰ	演習	1年	4		
ランドスケープデザイン研究Ⅱ	演習	1年	4		
芸術文化研究Ⅰ	演習	1年	4		
芸術文化研究Ⅱ	演習	1年	4		
修了制作	演習	2年	8		

※指導教員が認めた場合、造形学部開講の「専門講義・実習科目」または「分野別専門科目」の履修をもって、自由科目の修得単位とみなすことができる。

共通科目の概要

※2019年度の内容につき2020年度は変更になる場合があります。

理論科目	アートマネージメント	アートマネジメントの実際的な事例に即した講義をおこなう。様々な分野からゲスト講師を招いたり担当教員との対談など、様々な講義内容となる予定。毎週開講が原則だが、多少の変動がある。
	デザインマネージメント	時代の変遷、社会・経済の状況に対して、各種デザインはどのような考えのもとに形づくられ、世に送り出されてきたか。戦後～現在の社会とデザインの変遷や状況を振り返り、将来に向けてのデザインマネージメントの重要性について考える。
	現代美術特殊研究	現代美術史の中で、ターニングポイントとなった現代美術の作品や展覧会を知る。愛知県立美術館や名古屋美術館を見学し、展覧会のキュレーションを知り、レポートを提出する。展覧会・アートプロジェクト・アートイベント等の企画書を制作しプレゼンテーションする。
	美術史特殊研究	西洋美術史で19世紀から20世紀にかけておきた芸術を、その流れの特質を個別的に作家論や芸術運動を比較しながら論じる講義(原書購読あり)。
	デザイン文化特殊研究	今まではデザインという領域として扱われてこなかった「比較的新しいデザインの領域」について、例の提示することで、デザインの考え方について受講者とディスカッションしながら進めていく。
	環境自然文化特殊研究	自然と人間の関係のあり方をデザイン、アート双方の領域から問うための基礎的思考の一助となるための講義。自然との関わり方の考察。
	造形解析研究	絵や図形と数学との関係を考える。本年は特にアート、デザインのためのプログラミング言語であるprocessingを講義する。
	メディアデザイン特殊研究	メディア表現およびメディアデザインに関して、他分野との関わり方や、俯瞰的な捉え方などを行いながら、情報化社会の現代における「メディア」の役割を考察する。
	都市文化特殊研究	近年、アーティスト・クリエイターの創造性に着目したまちづくりが全国的に広がりをみせている。そこで、本講義では「まちづくり」という分野を、より総合的かつ横断的に捉えるため、様々な角度から切り取り、今後のまちづくりの新しいあり方について論考していく。

自由科目	造形 I～VI	各々のレベルに応じて、学部開設の専攻実技科目または演習科目を履修する。レベルについては、指導教員と相談する。 (学部の授業概要参照)
	特別講義(建築構造) 特別講義(建築設備)	建築構造設計では、実践的な構造計画の考え方から解析方法、構造計算の考え方を講義する。 建築物の静的挙動や地震や風に対する応答を把握するためには、数値解析が不可欠である。 建築構造において理解すべき理論や一般的に使用されている数値解析法について解説し、数値解析における問題点・注意点などの理解を深める。 建築設備設計では、近年特に配慮されている環境技術、建築設備技術を紹介する。 また、今後の設備設計のあり方について述べ、建築意匠設計者と協同するプロセスで情報提供すべき事項および要求条件などについて論じる。
	インターンシップ I～VIII	

研究分野別科目(修了制作)

造形表現制作分野	修了制作	それぞれの研究対象を明確に決定して、研究してきたものを自己の作品にする。
造形表現構想分野	修了制作	それぞれの研究対象を明確に決定して、研究してきたものを自己の作品や論文にする。

- 取得可能な資格
- 中学校教諭(専修)免許(美術)
 - 高等学校教諭(専修)免許(美術)